第３学年３組　　社会科学習指導案

平成２５年５月９日（木）　第３時 [redacted]

１　単　元　　第一次世界大戦とアジア・日本『再び戦争を起こさな

２　構　想

本学級の生徒は全体的に落ち着いていて、教師の話をよく聞き、まじめに授業に取り組むことができる。しかし、社会科の授業での挙手・発言については一問一答的な発問には多くの生徒が答えられるものの、自分の思いや考えを伝え合うことはクラスの中でも一部の生徒に偏っている。これは、授業において知識を得ることに意識が傾き、答えが決まっていない自分の想像や思い、考えを発表することを苦手としているからであると考える。また、自分の思いを表現できる一部の生徒に、今後の授業の展開を頼っている面もある。しかし、総合的な学習の時間に日本の「沖縄戦」や「東京大空襲」のビデオを視聴した際には、被害を受ける様子をとらえ、二度と戦争を起こしてはならないという感想を書き残す生徒が非常に多くいた。平和に対する生徒の意識は、予想以上に高いと感じた。そこで、歴史的事実に対し自分なりの意見、感情をもち、お互いの意見を様々な角度から考えて分析し、他者と協力して新たな考えを構築する力を身に付けてほしいと願い、本単元「再び戦争を起こさないために、どうしたらいいのか？」を設定した。

本単元で扱う第一次世界大戦は、これまでの戦争とは異なり、複数国が同盟関係によって結びついたことや新兵器の利用により、多数の戦死者を生んでしまった戦争である。戦争の被害の大きさにだけでなく、第一次世界大戦を新たな植民地を獲得するためのきっかけに使った日本、戦況を見て国際的な発言力を高めることに始終するアメリカなど、様々な国の利己的な面が見られる。そのため、歴史的事実に生徒の感情や思いを加え、考えを構築するのに適している単元であると考える。また、戦後に国際平和に向けて様々な対策を講じ始めるものの、その対策にも戦勝国の互いの利益が大きくからんでおり、まだまだ不十分であったというのが本音である。戦争は、北朝鮮が核実験やミサイル開発を繰り返す現在の社会情勢から、生徒たちにとっても他人事ではない。平和な未来を願う私たちにとって、今後同じような惨劇を繰り返さないためにも、切実感をもって考えなければならない問題となる。本単元を通して、今後の平和な未来を築くために、日本をはじめとする世界各国が、今何を意識して行動しなければならないのかを考えるきっかけとなることを期待している。

本単元の導入では、第一次世界大戦における主要国の戦死者数を提示する。次に、数多くの戦死者を生んだ戦争の様子について映像資料を視聴させる。これまでの戦争とは比較できないほどの死者数に驚き、大量殺戮兵器が次々に作られた様子からも、戦争の悲惨さを実感するであろう。そして、戦争に対する生徒の関心を高めたところで、第一次世界大戦が起こったきっかけとともに、大戦に関わった国の参戦理由や動向、戦後の対策などについて教科書、資料集だけでなく、教師側で用意した資料や情報を提示して丁寧に学習する。一つ一つの戦後対策を追っていくと、戦争を防ぐための軍縮や国際連盟の立ち上げ、ヨーロッパ地域の民族自決など、平和に向けて世界が動き始める様子が見られる。しかし、戦後対策にも今後も植民地獲得競争を続けて争いを繰り広げることをやめようとしない列強の策略が見え隠れしており、まだまだ平和への意識が乏しい姿が見えてくるだろう。そこで、「再び戦争を起こさないために必要なもの」を考えさせることによって、自国の利益はもちろんのこと、他国を尊重する意識と世界全体の利益を深く考えなければならないことに気付かせたい。そして、戦争を通じて国際情勢に触れた日本が民主主義の道のりを歩み始め、個々の苦しみを労働運動や差別からの解放運動につなげたこと、個々の思いや考えを文章や絵画に表現するようになったことを学習し、大戦を通して変化した日本の様子をとらえさせたい。

[redacted]
）
いて、平和な世界を築くために改善する必要があるものを他者と共に考える過程で、平和のため各国がどう行動すべきか公平に判断する力を身に付けさせる。

３　単元の目標

（１）　第一次世界大戦の背景となる世界情勢について関心をもち、平和な世界を築くための戦後対策を進んで調べたり、大戦と現代社会とのつながりを考えたりしようとする。

（２）　第一次大戦終了後、同じ過ちを繰り返さないための方策について話し合う過程の中で、調べた情報をもとに戦後対策に対する課題を考えることができるようにする。

（３）　第一次世界大戦について、被害の状況や関係諸国の動向を読み取ったり、世界平和に向けた対策について調べ、図や表にまとめたりすることができるようにする。

（４）　第一次世界大戦が列強の植民地獲得競争から発生したことや、大戦後の世界情勢の変化について理解することができるようにする。

４　指導計画（10 時間完了）　※　特に「表出する生徒を育てる学習」を展開する授業

学習内容	生　徒　の　活　動	手だて・支援
○第一次世界大戦が起きた理由 ・ヨーロッパの火薬庫 ・三国同盟 ・三国協商 ・ロシア革命 ・二十一か条の要求 ○大戦後の世界情勢 ・ベルサイユ条約 ・民族自決 ・国際連盟 ・ワシントン軍縮会議 ・五・四運動 ・三・一独立運動 ・ガンディー ・非暴力・不服従 ○戦後対策の課題 ・価値判断 ○大正デモクラシー ・護憲運動 ・民本主義 ・政党内閣 ・普通選挙法 ・治安維持法 ○社会運動 ・労働運動 ・小作争議 ・全国水平社 ・平塚らいてう	なぜ、世界を巻き込んだ戦争が起こったのだろう？　１・２ 植民地をたくさん獲得するため／１対１の戦いに、別に国が加わった／各国が、同盟関係を結んだから 列強の植民地をめぐる争いがきっかけだったんだね ロシアは、なぜ戦線から離脱した？／アメリカはなぜ、途中から参加した？／日本はなぜ、世界大戦に関わったの？ 革命のため、戦争が続けられなかった／戦況を見て、大戦に参加したんだね／植民地の獲得に利用したんだね 各国の欲望と背後事情が大きく関わっているね 第一次世界大戦後、世界はどうなったのだろう？　３・４ ベルサイユ条約で、ドイツは多額の賠償金を課された／ウィルソン大統領が、民族自決を唱えた／国際平和のために、国際連盟が立ち上げられた／ワシントン会議で、軍縮が図られた 世界は平和に向けて努力し始めたんだね。 大戦後の対策は、どのくらい効果的だったのだろう？ ※　**大戦後の体制は、世界を平和にしたのだろうか？**　５・６・７（本時） 強力な国際組織が必要だな／平等な社会をつくらないと／兵器の削減をする必要がある／平和条約が必要だ 参加していない列強もあり、不十分／アジアの民族自決は認められていない／日本が不利になりやすい兵力を削減している／戦勝国の利益が重視されている どの国も平等な立場になり、 どの国も参加できるような対策をしていかないといけないんだね 第一次世界大戦後、日本はどのように変化していったのか？　８・９ 民主主義の考え方が日本にも広まってきたね／普通選挙法など、人々に一定の権利が認められた／治安維持法によって、社会主義の思想をおさえようとした 少しずつ、一般大衆にも権利が認められるようになっていったんだね 人々の生活には、どのような変化が見られたのだろうか？　10 教育も、個人の自主性を重視するようになったんだね／一般の人が気軽に楽しめるような娯楽も生まれてきたんだね／自分の思いや考えを、文学や音楽で表現できるようになったね 第一次世界大戦は、国家意識、民族意識の高揚など、世界の様々な国に影響を与えたんだね。	**【手だてａ】数多くの戦死者や被害が出たことを把握させるため、導入で日清・日露戦争の戦死者数と第一次世界大戦の戦死者数のグラフを提示する。** **【手だてａ】戦争の様子をとらえさせるため、戦闘中の映像を視聴する。** ・各国がなぜ大戦に参加することになったのかを分かりやすくするため、主な大戦参加国同士の関係を図で表す。 ・民族自決によってヨーロッパ地域の独立国が一気に増えた様子をとらえさせるため、大戦中と大戦後のヨーロッパの地図を提示する。 ・インフレーションのため、ドイツの経済活動に大きなダメージを与えたことを理解させるため、札束を積み木のようにして遊ぶ子供の写真を提示する。 **【手だてｅ】生徒の思考を分かりやすく図式化するため、世界平和のために必要なことを書き、構想図を作成する。** ・他者の意見を聞きながら個々の考えを深めさせるため、４人グループで取り組む。 ・自分たちの考えと実際の戦後対策のどこが違うのかを分かりやすくするため、戦後対策についての資料を拡大コピーし、教室に掲示する。 **【手だてｄ】大戦後の対策には、列強の利己的な考えが多く含まれていることに気付かせるため、生徒の考えた対策と比較し、戦後対策に何が足りなかったのかを考える。** ・大正期に文化がどのように変化したかをとらえさせるため、明治時代の主な文学・美術作品と大正期の文学・美術作品を並べて提示して、違いを考えさせる。

第３学年３組　　社会科学習指導案（修正指導案）

平成２５年５月９日（木）　第３時 [redacted]

１　本時の指導（７/10）

（１）授　業　名「　再び戦争を起こさないために必要なものは何だろ

（２）本時の目標

①　世界平和のために必要だと思うこととその修正点、実際の戦後対策について不十分だと考える点について、自分なりの考えを進んで発表することができる。

②　自分たちの意見と他のグループの考えを比較する中で、世界平和のために必要なことに対する見識を深め、戦後対策についての課題を考えることができる。

（３）準　備

生徒：ノート　教科書　資料集

教師：戦後対策の拡大掲示図　生徒の戦後対策に対する得点グラフ　座席表

（４）コミュニケーションの位置付け

・互いの意識の「ずれ」を感じさせ、そのずれがどこにあるのかを考えさせるため、大戦後の対策がどの程度有効であったのかを数値化し、そう考えた理由を発表する場を設ける。（活動３）

・新しく考えた戦後対策に対する修正点や補足点を加える場面で発言・発表がしやすくなるよう、「本当にそれは実現可能なのだろうか？」ということを視点として聞くように指示する。（活動４・５）

（５）指導過程

生徒の活動	手だて・支援
１　「大戦後の対策が、世界平和にどの程度貢献したか」について生徒が出した得点をグラフで表したものを見て、前時までの学習を想起する。（３）	・学習に対する意欲を喚起するため、国際連盟、ベルサイユ条約、民族自決、ワシントン会議の４つの戦後対策を通して、どの程度戦争を抑止することに貢献したかを前時の間に考えて点数化させ、得点のグラフと平均点を大型テレビで提示する。
２　本時の学習課題を確認する。（２）	・学習課題を板書する。
大戦後の対策は、どのくらい世界を平和にしたのだろうか？	
３　大戦後の対策が、戦争の抑止にどの程度貢献したのかについて、それぞれの対策に対する点数とその理由を発表する。（10） 「ベルサイユ条約」 ・戦勝国の利益を優先しすぎているため、平和な社会ができない。 ・ドイツに不利な条件を付きつけ過ぎているため、今後反撃されることが予想される。 「民族自決」 ・民族自決は、アジアには認められず、平等性を欠いているため、新たな争いを生んでしまった。 「ワシントン会議」 ・軍備が縮小されたが、日本に不利な条件を付きつけ過ぎているので、今後日米関係を悪化させてしまうかもしれない。 ・中国の領土の解放など、アメリカにとって都合の良いことばかりを取り入れているため、他国から批判されそうだ。 「国際連盟」 ・立ち上げにかかわったアメリカや戦線から離脱したロシアなど、様々な国が加盟していないからあまり意味がない。 ・専門機関があまり機能していない。	・戦後対策に対する互いの意識のズレや共通点を捉えさせるため、先の４つの対策について、それぞれ点数をつけさせ、その理由を発表する場を設定する。 ・他者の意見と比較する視点をもちやすくするため、「全く変わらない」を「０」、「完全に安心である」を「100」として数値で表すよう指示しておく。 ・挙手・発言に対する意欲を喚起するため、どうしてその数値を付けたのかを、理由と共に発表することができた生徒を称賛する。 ・生徒の考えた数値と実際の戦後対策の内容を生徒同士で比較しやすくするため、戦後対策についての内容を拡大コピーし、教室の窓枠に掲示する。 ・数値をつけた理由についてどう発表したらよいか困っている生徒については、友達の意見とのずれやこれまでに学習した戦後対策では不十分な面を考慮するよう指示する。

4　４つの戦後対策を 100 点に近づける「新戦後対策を考えて発表し合い、互いの発表に対する相互批正をする。(32) **【手だてｃに対して予想される生徒の姿】** ・　自分たちのグループで考えた意見を、他の生徒に自信をもって伝えることのできる姿 ・　他のグループのアイデアを「実現可能かどうか」に主眼を置き、修正点や補足点を考えながら発言を聞く姿 **「新国際連盟」** ・戦勝国だけでなく、世界中の国が参加できるようにする。そして、組織の力を上げる。 ＊（世界中の国が参加できるために） →植民地をなくし、平等な世界をつくる ＊（組織力の向上のために） →もし、戦争を起こす国が出たら、世界中でその国に攻撃するようにする。 **「新ベルサイユ条約」** ・ドイツだけでなく、世界中の国々の軍備を制限する。 ＊（世界中の軍備を制限することは可能か） →条約で、各国が保持してよい量を決める。 ＊（ドイツだけ、負担がかかりすぎないように） →軍備縮小と共に、今後戦争しようという意識をもたせないため、復興支援しつつ、国内の様子を監視し続ける。 **「新ワシントン会議」** ・海軍だけでなく、全ての兵器削減を世界中で約束する。軍事同盟を結ぶことを禁止する。 ＊（世界がそれを認めるか） →約束を破ったら、その国に世界中から制裁を加える。 **「新民族自決」** ・ヨーロッパだけでなく、アジアやその他すべての植民地の解放を認める。 ＊（植民地の解放を、帝国主義国が認めるか） →自国の利益だけを考えて行動しない。 →世界各国の状況を考えるために、国際理解に努める。 5　本時の感想を書く（３）	**【手だてｄ(2)】** ・生徒のこだわりを生かすため、戦争を起こさないようにするために最も必要であると考えた対策を１つに絞り、自分なりに考えた新しい内容を書かせる。そして、同じ対策について考えた生徒と４人グループを作り、「実現するためにはどうすべきか」に主眼を置き、修正点や補足点を検討させてから発表させる。 ・５分間を個人で考える時間とし、さらに同じ対策について考えている他の生徒と４人グループを組み、グループ内で協議しながら１０分間考える場を設定してから、発表させる。 ・修正点や補足したい点を考えやすくするため、各グループの内容について「実現可能かどうか」を問いかけながら机間指導をする。 ・史実から離れた想像だけの意見にならないよう、これまでの歴史学習や、近年の国際情勢、総合的な学習の時間に視聴した映像などに基づいて意見を考えるよう助言する。 ・修正点や補足点を生徒に分かりやすくとらえさせるため、新しく考えた戦後対策の内容を、グループごとの発表時に黒板に黄色のチョークを使用して書く。 **・全てのグループの発表に対する相互批正を行うには時間が足りなくなることが予想されるため、「ワシントン会議」に内容を絞って修正点や補足点を全体で考えさせる。** ・理想を現実にするためには、世界各国の協力と自国の利益だけでなく他国を思いやる気持ちが必要であることを捉えさせる。そして、新しい対策を実現する上で発生すると考えられる新たな問題についても考えさせる。 ・生徒の意識がどの戦後対策に向いたかを把握するため、戦争を抑止するために一番必要であることを考えさせ、反省と共に感想を書かせる。

６　評　価

（１）　世界平和のために必要だと思うことについてのアイデアを進んで発表したり、実際の戦後対策に対する改善点を考えたりしようとすることができたか。

（活動３・４・５の発言の様子やノートの記述から）

（２）　自分たちの意見と他のグループの考えを比較したり、実際の戦後対策と自分たちの考えとの違いを考えたりすることで、戦後対策に対する改善点を考えることができたか。

（活動３・４の発言の様子や活動４・５のノートの記述から）